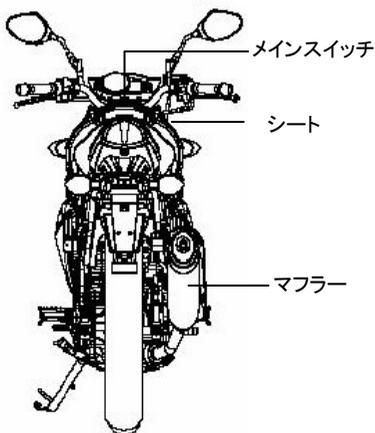
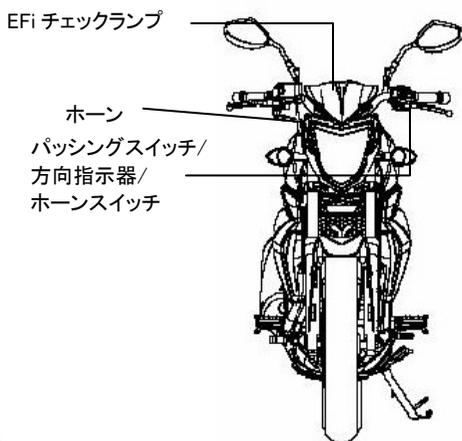
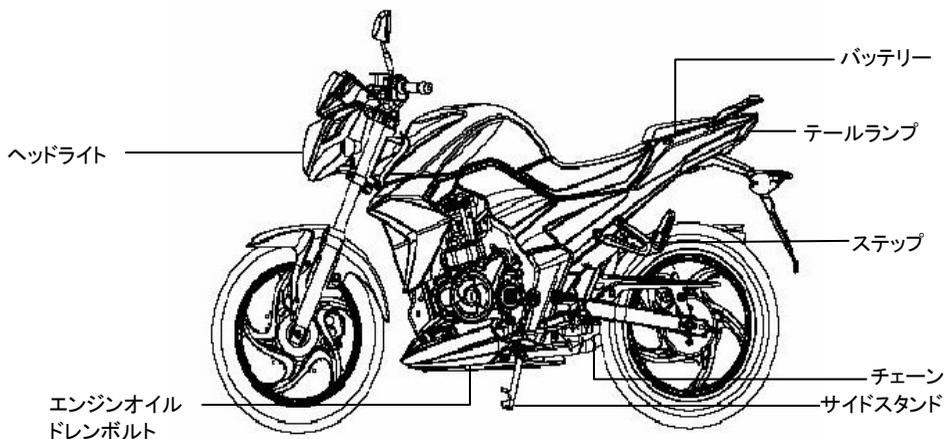
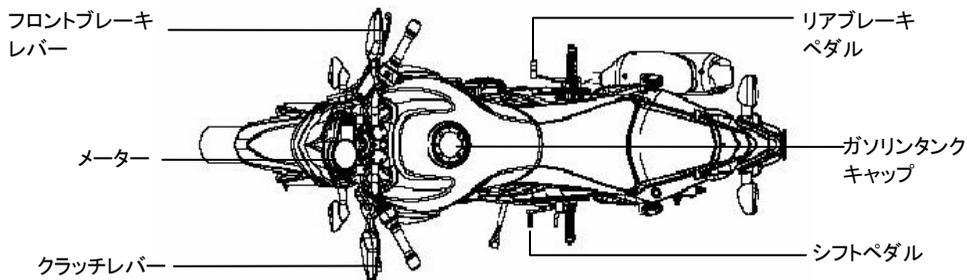
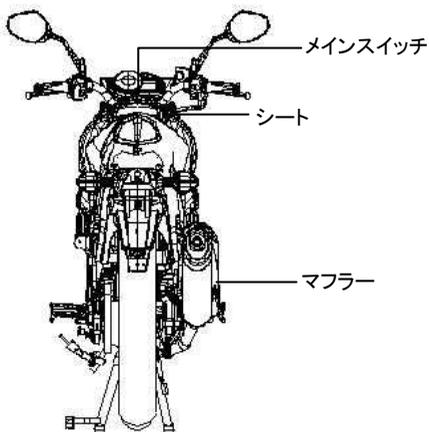
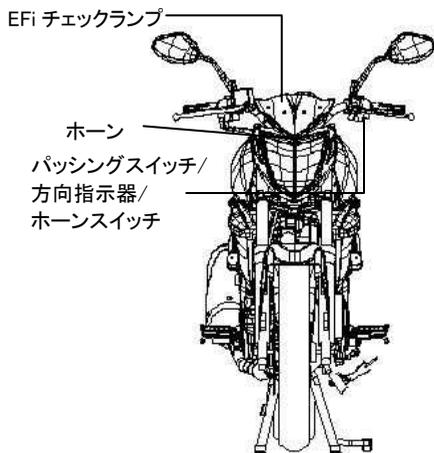
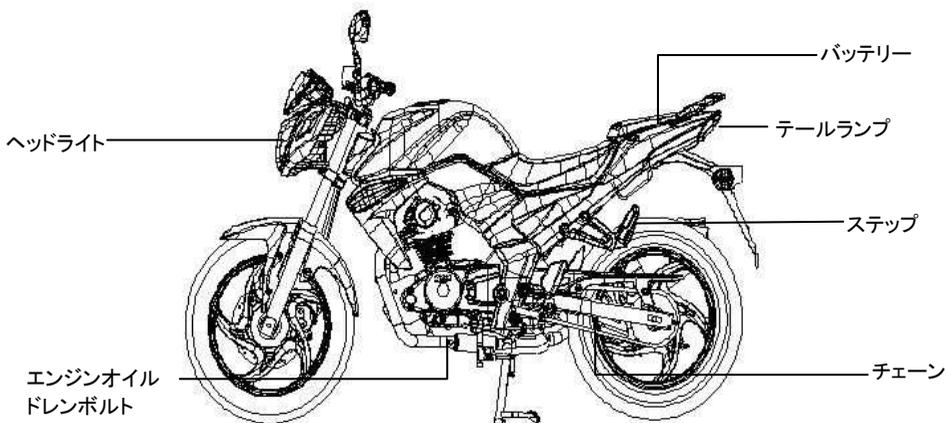
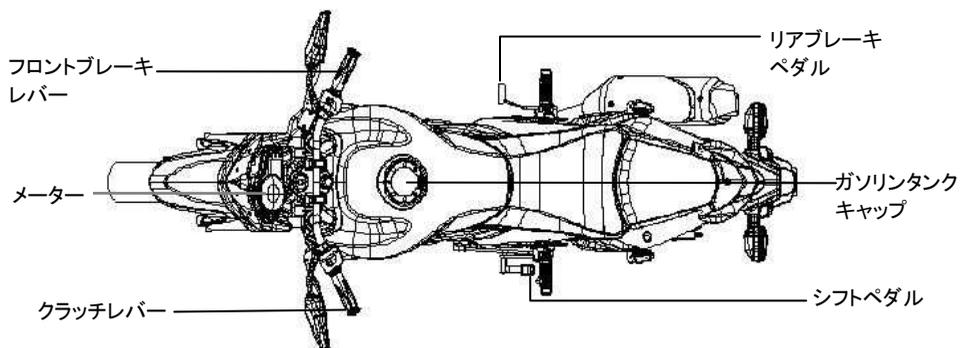


| | |
|-------------------|----|
| 1. 内容 | 1 |
| 2. SYM車の保証 | 3 |
| 3. メンテナンスレコード | 4 |
| 定期点検整備の記録 | 4 |
| その他 臨時整備の実施記録 | 5 |
| 油脂液類・消耗品の交換記録 | 6 |
| SYM からのおすすめ点検整備記録 | 9 |
| 4. コントロールロケーション | 10 |
| 5. ご試乗の前に | 12 |
| 以下の事にご注意下さい | 12 |
| 純正スペアパーツの使用 | 12 |
| 安全運転 | 13 |
| ドライビング | 13 |
| 6. 各種機能の使い方 | 15 |
| メーター | 15 |
| メインスイッチの操作 | 18 |
| ハンドルロックの操作 | 18 |
| スイッチの使い方 | 19 |
| エンジン始動要領と注意事項 | 21 |
| 正しい走り方 | 22 |
| 坂道の運転要領 | 22 |
| ギアボックスの操作 | 23 |
| 正しい運転開始要領 | 23 |
| スロットルコントロール | 23 |
| 停車するとき | 24 |
| ブレーキ | 24 |
| 7. 乗車前の点検とメンテナンス | 25 |
| 日常の点検 | 25 |
| エンジンオイルの点検と交換 | 25 |
| スクリーンオイルフィルターの清掃 | 26 |

| | |
|----------------------------------|-----------|
| エンジンオイルフィルターの清掃..... | 26 |
| ガソリンの点検..... | 26 |
| ブレーキランプの調整..... | 27 |
| ラジエターの点検..... | 27 |
| ラジエター液の補充..... | 27 |
| ディスクブレーキの点検..... | 28 |
| クラッチレバーの点検と調整..... | 29 |
| スロットル遊びの調整..... | 29 |
| ブレーキレバーの調整..... | 29 |
| 駆動チェーンの点検と調整..... | 30 |
| タイヤの点検..... | 31 |
| フォークハンドルの点検..... | 32 |
| ヒューズの点検と交換..... | 32 |
| バッテリーの点検とメンテナンス..... | 33 |
| 点火プラグの点検..... | 33 |
| エアクリーナーエレメントの清掃..... | 34 |
| 8. こんなときは | 35 |
| エンジンが始動しないとき..... | 35 |
| 9. 排出ガス制御システム | 36 |
| 蒸発ガスコントロールシステム..... | 36 |
| ブローバイガス還元システム..... | 36 |
| 触媒還元装置..... | 36 |
| 10. 排気ガスの減少とガソリンの節約 | 37 |
| 11. 排気排出の原因 | 38 |
| 12. 定期メンテナンススケジュール | 39 |
| 13. 諸元表 | 40 |
| 14. メモ | 41 |

PD25A シリーズ





お買い上げいただきありがとうございます。

お客様のスクーターの性能を最大限に活かすために、定期点検及びメンテナンスは必ず行って下さい。
新車の場合、最初の 300Km 走行時にお買い上げの SYM 特約店に車両をお持込みのうえ、初期点検をお受け下さい。その後は、走行 1000Km 毎に定期点検を SYM 特約店で行って下さい。

以下の事にご注意下さい

- 1、ガソリンはレギュラーガソリン(オクタン価 90 以上)をご使用下さい。
 - 2、エンジンオイルは SAE 10W-40 API SJ または同等以上のエンジンオイルをご使用下さい。
 - 3、定期メンテナンススケジュールにしたがって、定期的なメンテナンスを受けて下さい。
 - 4、環境汚染防止のためにも、排気システムの改造は絶対にしないで下さい。
 - 5、注意事項: 点火システム、充電システム、燃料システムは排気ガス制御システムの正常な作動に関係しています。
 - 6、エンジンがうまく作動しない時は、SYM 特約店に車両をお持込みになり点検を依頼して下さい。
- **必ず無鉛レギュラーガソリン(オクタン価 90 以上)をご使用下さい。**

純正スペアパーツの使用

二輪車の最高の性能を維持する為に各パーツの品質、素材、精密性はおもとの設計が要求するものに適合する必要があります。“SYM 純正パーツ”はお乗りいただいている車両と同品質の素材が使われています。高度な技術と厳格な品質管理を通じて生産される“SYM 純正パーツ”を“SYM 特約店”からご購入下さい。廉価品や共用パーツを使用された場合はメーカー保証の対象とはなりません。また、トラブルの原因や二輪車の性能を低下させる恐れがあります。

- あなたの二輪車を安全快適に保ち、より長く使用できるように“SYM 純正スペアパーツ”を使用しましょう。

安全運転

- 走行時にはリラックスして、運転に適切な服装であることが重要です。交通ルールを守り、正しく運転しましょう。
- 一般的に、多くの人は新車購入時にはとても慎重に運転されますが、慣れてくると無謀な運転をしがちになり、
- 事故やトラブルを起こしやすくなります。

忘れないで下さい

- ヘルメットは必ず着用して下さい。
- 走行中は携帯電話を使用しないで下さい
- 制限速度を守って下さい。
- 定期点検とメンテナンスを実施して下さい。



△ 警告！！

- 後部シートに人を乗せる場合、マフラーで火傷をしないように必ず後部乗員がペダルに足を置いたことを確認して下さい。
- 二人乗りする場合は左側から乗車し、火傷を防止するために必ずステップの上に足を置いて下さい。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。他の人がマフラーで火傷をしないように車両を駐車する場所にも充分注意を払いましょう。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。点検やメンテナンスを行う時は火傷をしないようにくれぐれも注意して下さい。

ドライビング

- 走行に当たっては、身体の使用箇所、すなわち腕、手のひら、腰やつま先を常にリラックスさせ、一番楽な姿勢で乗るようにしましょう。必要な時に素早く反応ができるように常に心がけて乗りましょう。運転者の姿勢は安全運転に大きく影響します。常に身体の重心がシートの真ん中にあるようにして下さい。もし、身体の重心がシート後部にあると前輪への負荷が減り、ハンドルが取られやすくなります。不安定なハンドルでの二輪車走行は大変危険です。

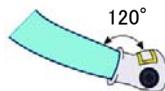
正しい姿勢



誤った姿勢



グリップの内側より指1本分開ける



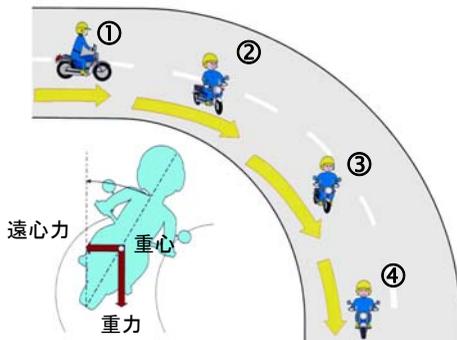
腕の角度

カーブ走行時のポイント

- カーブを曲がる時には、運転者と車体が同一方向に傾けるとターンしやすくなります。反対に運転者が身体と車体を傾けないと不安定になります。

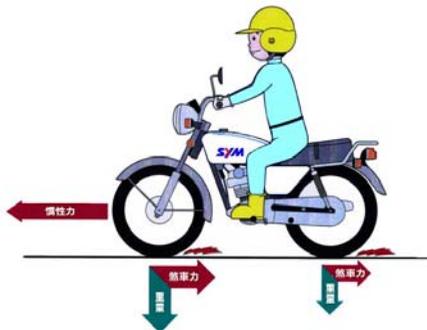
カーブ走行要領：

- ①カーブ手前でしっかり減速する。
- ②カーブ走行中は速度を一定に保つ。
- ③カーブを出る時は適度に加速し、安定走行を保ちましょう。
- ④カーブを出た後は前後の安全を確認してから加速しましょう。



ブレーキの要領

- ブレーキをかける時は、前後輪ブレーキを同時にかけましょう。二輪車の性格上、片方だけかけると、不安定になり転倒しやすくなります。車体をまっすぐに保ち、急ブレーキは避けて下さい。タイヤがロックされます。



- でこぼこ道、未舗装道路、路面変化の激しい山道等では不安定な走行となりがちです。スムーズに走行できるように予め道路状況を把握してスピードを落とし、姿勢の安定を保ち、肩の力を抜いてハンドル操作をしましょう。

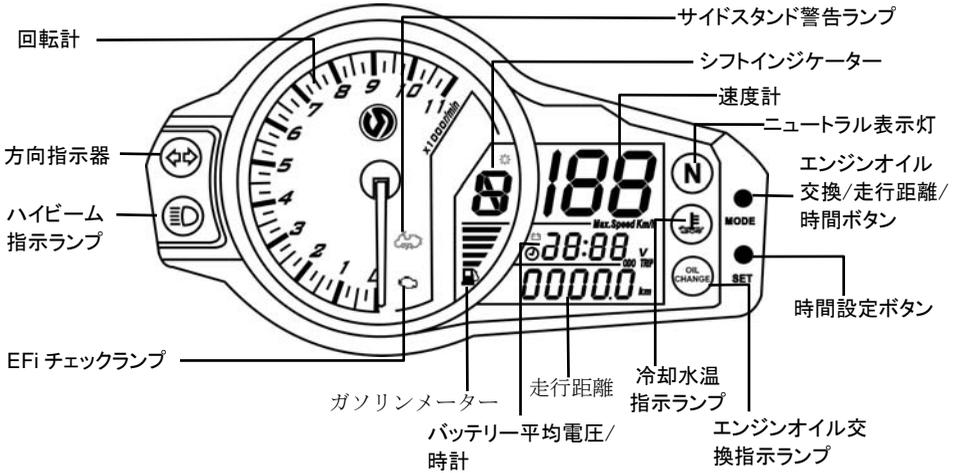
△ 注意！！

- 布切れ等燃えやすい物をボディカバーとエンジン間に置いたりしないで下さい。
- 指定場所以外に荷物を載せないで下さい。車両を傷めます。
- フロントボックスに荷物を積み過ぎないで下さい。ハンドル操作に影響を及ぼします。
- 荷物がある時と無い時ではハンドルに掛かる感覚が異なります。荷物の積み過ぎはハンドルをふらつかせ安定走行に影響します。特に過剰な荷物は載せないで下さい。
- 車両改造は構造やパフォーマンスに影響があります。結果的に車両の寿命を短くする事になります。また、改造自体違法行為です。車両改造をしないように注意しましょう。

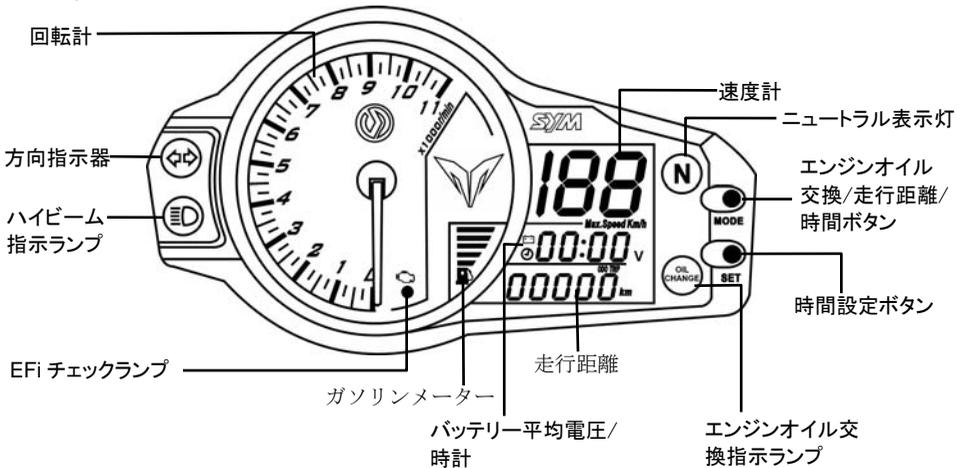
(下記は SYM バイク T2 シリーズの基本操作です。各モデル仕様により、異なる場合がございます。)

メーター

PD25A シリーズ



PD12A シリーズ



スピードメーター

運転速度を表示します。速度単位:キロ/時間。

走行距離メーター

走行距離の累積数を表示します。距離単位はキロです。

ハイビーム指示ランプ

ヘッドライトがハイビームを使っているとき、ハイビーム指示ランプが光ります。

方向指示器指示ランプ

方向指示器スイッチを使っているとき、方向指示器指示ランプが方向指示器スイッチ操作方向に合わせて点滅します。

ニュートラル指示ランプ

エンジンギアチェンジをニュートラルギアに入れたとき、このランプが光ります。

シフトインジケーター

今使っているギアを表示します。

ガソリンメーター

メインスイッチを“ON”の位置に回して、ガソリンメーターが“E”位置を表示する時、すぐに補充無鉛ガソリンを補充してください。

EFi チェックランプ

燃料噴射システムの状況を表示します。もし燃料噴射システムに問題があれば、警告ランプが点滅します。

サイドスタンド警告ランプ

サイドスタンド未収納時、警告ランプが光ります。この時ニュートラル状態でエンジンを始動できますが、ギアを入れた後、車両はすぐエンジンが止まるか、起動できません。サイドスタンド警告ランプが消えた後でなければ、車両は始動できません。

エンジン冷却水温指示ランプ

エンジン冷却水温度指示

エンジン冷却水温指示ランプがもし光ったら冷却水が十分かどうか、ファンモーターが動いているかどうか検査しなければなりません。

エンジンオイル交換指示ランプ

エンジンエンジンオイル交換指示ランプは、エンジンオイル交換時間を指示するためのものです。灯火信号で表示します。車両走行距離が約 1,000 キロに達したとき、指示ランプが光り、エンジンオイルを補充あるいは交換しなければならないことを示します。

エンジンオイル交換後、メインスイッチ電源をオンにして、“M” ボタンを長押し(2 秒以上)すると、指示ランプが消えます。

走行距離設定

1. オドメーター総走行距離とトリップメーター距離計数を表示できます。
2. メインスイッチを“ON”にした後、一般表示モードで、“M” ボタンを 1 秒押すと、総走行距離、トリップメーター及び電圧の切換ができます。



3. トリップメーターモードの時、“S” ボタンを長く押すと、トリップメーターの走行距離数をクリアできます。
4. “S” ボタンを短く押すと、運転最高速度記録を表示できます。
運転最高速度記録を表示して、“S” を長く押すと、記録を消去できます。

時間設定

1. 時間は 24 時間制です。
2. メインスイッチを“ON”に回した後、時計は 24 時間制の時間と分を表示します。
3. 正常モードで、車両が静止している時、“S” ボタンを長く押すと(2 秒以上)、“時間設定モード”に進みます。この時“S” ボタンを 1 秒短く押すと、設定モード(時間→分→十桁→分→一桁)を切り替えられます。“M” ボタンを 1 回短く押すと、数字が 1 増え、設定モードで、“S” ボタンを長く押すと(2 秒以上)と設定モードを終了します。

時 → 分(十桁) → 分(一桁)

電圧表

- バッテリーの電圧を表示します。
- メインスイッチを“ON”に回した時、バッテリー電圧が 10 秒されます。

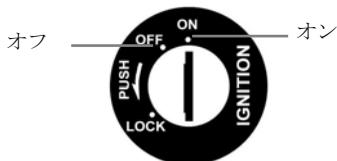
⚠ 注意！！

- メインスイッチキーを“ON”の位置に回すと、すべての照明システムスイッチがオフになり、エンジン未始動の電圧表示がもし 10.0V 以下なら、SYM 特約店でバッテリーを調査してもらってください。
- 車両運転中、電圧表示がもし 10.0V 以下あるいは 16.0V 以上なら、すぐ SYM 特約店で点検修理してもらってください。

メインスイッチの操作

“OFF”の位置: すべての回路がすべてオフになり、エンジンが起動できず、キーを抜くことができます。

“ON”の位置: 全ての回路がオンになり、エンジンが起動でき、キーを抜くことができます。



⚠ 注意！！

- 車両が完全に停車した後、初めてメインスイッチをオフにすることができます。運転中回路停電によって危険が発生するのを防ぐために、運転中にメインスイッチをオフにしないでください。

ハンドルロックの操作

“LOCK” 位置

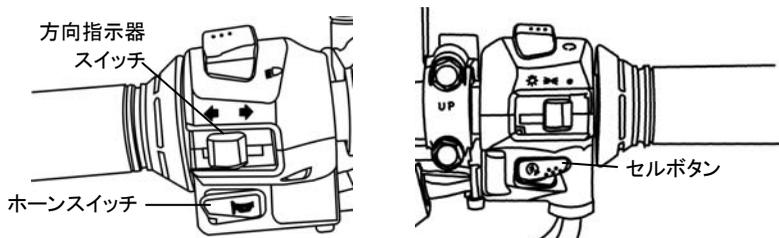
- キーを押した後この位置に回すと、ハンドルをロックできます。
- キーを抜けます。
- ロックを解除するとき、キーをこの位置から、直接 “OFF” の位置に回すとOKです。



⚠ 注意！！

- 車が盗まれるのを防ぐために、車を停めた時、必ずハンドルをロックしてください。
- ロック後、左右にハンドルを動かし、ロックされていることを確認してください。
- ロックを確認して車を離れるとき、必ずキーを抜いてください。

スイッチの使い方



セルボタン

-  セルモーターでエンジンを始動するとき、本ボタンを使用します。
メインスイッチキーを“ON”の位置に回して、ブレーキレバーを握ってこのボタンを押すと、エンジンが始動できます。

注意！！

- エンジンに傷めるのを防ぐために、エンジン起動後このボタンを押してはいけません。

方向指示器スイッチ

メインスイッチを“ON”の位置に回して、方向指示器スイッチを入ると、方向指示器が作動します。方向指示器スイッチを押すと消えます。ボタンには自動回復装置がついています。



右側方向指示器が光り、右折を示します。

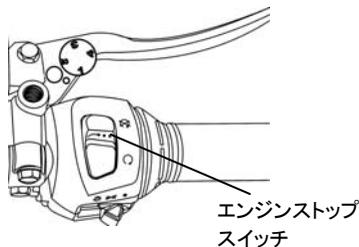
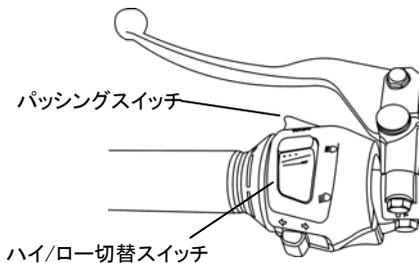


左側方向指示器が光り、左折を示します。

ホーンスイッチ



メインスイッチを“ON”の位置に回して、このボタンを押すと、ホーンが鳴ります。



・ パッシングスイッチ

PASS

メインスイッチが“ON”位置の時にこのボタンを押すと作動します。押している間、他の車両などに合図を送ることができます。

・ エンジン停止スイッチ



“オン”位置

この位置でエンジンが始動できます。

⚠ 注意！！

- 対向車があるとき、このスイッチを押さないください。相手ドライバーの目をくらませ、運転安全に影響します。



“オフ”位置

この位置でエンジンは始動できず、エンジン停止に使われます。

・ 遠、近ランプ切替スイッチ



ハイビームライト。



ロービームライト。市街地、対向車があるときは、ロービームライトを使ってください。

エンジン始動の要領と注意事項

エンジンの起動方法:

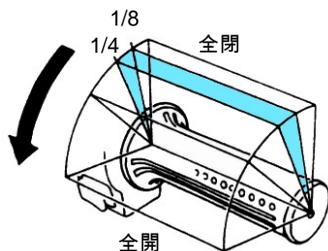
1. キーをメインスイッチに挿入して、赤い点の位置“ON”まで回します。

⚠ 注意！！

- エンジン始動の前、エンジンオイルとガソリン量が十分かどうか検査してください。風通しが良いところで始動し、急速な空吹かしを避けてください。

2. ギアをニュートラルに入れます。

3. スロットルを約 1/8~1/4 位置回し、それからセルボタンを押します。



⚠ 注意！！

- エンジン始動前、エンジンオイルとガソリン量を検査してください。
- 暴走ないようにエンジン始動時、必ず先に後輪にブレーキをかけた状態で始動してください。
- セルモーターが3~5秒連続数回動いた後も、エンジンを始動できないときは、スロットルを1/8~1/4周回した後、セルボタンを押すと、簡単に始動できます。
- セルモーターが焼けるのを防ぐために、セルボタンを10秒以上続けて押さないでください。
- セルボタンを数回押した後も、エンジンを始動できなければ、10秒待ってから押してください。
- 車両を長期間使っていなかった、あるいはガソリンを完全に使い果たしてガソリンを補充した時、エンジンは始動しにくいです。何度もセルボタンを押して、スロットルを閉じると始動できます。
- エンジン始動した後、数分間暖機運転しなければなりません。
- エンジンの排気には有害な一酸化炭素が含まれるので、通風良好な場所でエンジンを始動してください。

正しい走り方

運転前に、後ブレーキが良好かどうか、タイヤ気圧が十分かどうか検査してください。

1. 先にクラッチレバーを握って、それから左足でチェンジペダルを踏んで一速ギアに入れます。
2. それからスロットルをゆっくりと開いて、同時に徐々にクラッチレバーを緩めると、車はゆっくりと走り出します。

注意

- エンジン始動後、車両運転まで、絶対にスロットルを回して、エンジン回転速度を上げてはいけません。

運転速度によって、必ずギアチェンジして運転しなければなりません。

そうしないと、速さとギアが合わず、エンジンに悪い影響をもたらし、ガソリンを浪費します。

注意！！

- 新車は運転を始めてから 1,000 キロ以内、急加速とエンジン長時間高速運転を避けなければなりません。そうしないとエンジン寿命を縮めます。
- 新車は 300 キロ運転した後、エンジンオイルを交換して、エンジンオイルフィルターをクリーニングしなければなりません。
- エンジン交換あるいは大修理の後も、スピードを制限して運転しなければなりません。
- エンジンは暖機して回転が安定した後、初めて運転できます。エンジンの寿命を延ばします。

坂道の運転要領

• 上り坂運転

普通坂は高速ギアで登ることができますが、急な坂あるいは二人乗りのとき、大きな駆動力を使わなければなりません。ですからギアを落として登坂力を増やし、エンジンが大変だと感じる前に、低速ギアに入れなければ、スムーズに運転できません。

• 下り坂運転

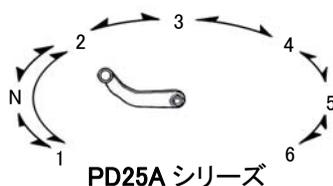
普通下り坂は、スロットルを閉じて（クラッチを引いてはいけません）、適時前、後輪ブレーキとエンジンブレーキを使って運転すると降りられます。急な坂あるいは二人乗りの時、その程度によってギアを落とすか、あるいは低速ギアで、エンジンブレーキを使って運転します。

注意！！

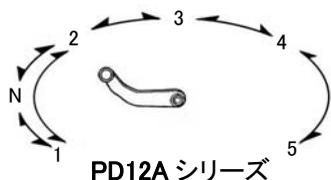
- ブレーキ時に前、後輪ブレーキを同時にかける習慣をつけてください。そうしないと滑る危険性があります。

ギアボックスの操作

- この車は6速(5速)リターン式です。交通量が多い地区、上り坂あるいはカーブで運転している時、エンジンが大変だと感じる前に低速ギアに入れてください。下り坂の時も、低速ギアを使わなければなりません。安全速度を維持して、ブレーキが過熱するのを防ぎます。
- 変速時、クラッチレバーをいっぱい握って、左足でチェンジペダルを操縦して適当なギアに入れ、ゆっくりとクラッチを緩めればOKです。
- エンジンが回転していない時、ギアボックスを操作しないでください。一部ギアは入りません。
- 変速機構に損傷を与えないように、大きな力でチェンジペダルを踏まないでください。
- 運転中前の車を追い越すとき、一つ低いギアにギアチェンジして、それから加速して前の車を追い越します。速度範囲は右の表を参照してください。
- エンジン回転速度が高すぎ、エンジンの寿命に影響するので、高速運転中、急加速するのはよくありません。



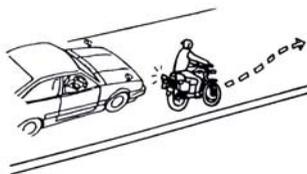
PD25A シリーズ



PD12A シリーズ

正しい運転開始要領

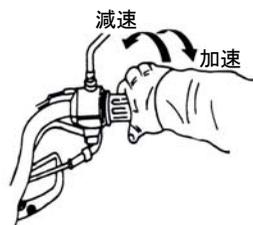
- 最初運転の前、方向指示器をつけ、眼で後方を確認して、車が来ないことを確認してから最初の運転ができます。
- 最初運転の前、危険が発生しないように、スタンドがしまわれているか、確認しなければなりません。



スロットルのコントロール

加速: 運転速度を速めます。坂のある道路で運転するとき、ゆっくりとスロットルを回して、エンジン回転数と車の速度に適当なギアチェンジを合わせます。

減速: 運転速度を落とします。



注意！！

- 車両の性能と寿命を維持するために、新車期間（約1,000キロ）急加速を避けてください。負荷がないとき、エンジン高速運転を避けてください。

停車するとき

1. 停車地点に接近した時:

- 早めに方向指示器をつけて、後方車両に警告して、それから減速して右側に寄って運転します。
- 停車時スロットルを緩めると同時に、ゆっくりと前後ブレーキレバーを引きます。

2. 完全な停車:

- ウィンカースイッチを元の位置に戻して、メインスイッチを“OFF”の位置に回すと、エンジンが停止します。

注意！！

- 事故と危険を避けるために、運転中メインスイッチを動かさないでください。

3. 盗難を防ぐために、車両停止後、ハンドルをロックしてキーを抜いてください。

注意！！

- サイドスタンド駐車時、ハンドルを左に曲げるか、ギアを一速に入れて、停車安定性を確保してください。
- 運転後、マフラーは熱くなっています。バイクを止めるときは、やけどを避けるために通行人あるいは子どもが触らないところを選んでください。そして乾燥して燃えやすいもの（例：油類、雑草、紙類……等）を近くに置かないでください。

ブレーキ

- スロットルを緩めた後、前、後ブレーキが同時に作動します。
- “初めはゆっくり、やさしく、それから全力でブレーキ”、これがブレーキの一番いい方法です。
- 急ブレーキあるいは急カーブは、スリップと転倒につながりやすいです。
- 特に雨の日あるいは地面が濡れているとき、急ブレーキ、急カーブは、タイヤがスリップ、あるいは転倒する危険があります。
- 雨の日あるいは路面がぬれているところでは、晴れたよりもブレーキ停止距離が長くなります。スピードを落として、早めにブレーキの準備をしてください。
- 下り坂の時、スロットルを緩めて、ポンピングブレーキをかけて、ゆっくり運転してください。

注意！！

- 単輪ブレーキを使用すると、バイクが傾きやすく、スリップする危険があります。
- 運転速度と各ギアはお互い対応しています。高速時に低速ギアに入れたり、あるいはエンジンブレーキをかけたりするのを避けてください。

日常の検査

| 点検項目 | チェックポイント | |
|--------------------|------------------------------|--|
| エンジンエンジンオイル | 規定線の間にありますか？ | |
| ガソリン | 燃料量が十分か？ | |
| ブレーキ | 前ブレーキ | ブレーキの状況は？〔ブレーキレバー遊び 1~2 センチ〕 |
| | 後ブレーキ | ブレーキの状況は？〔ブレーキペダル遊び 2~3 センチ〕 |
| タイヤ | 前輪 | 気圧は正常か？〔標準 1 人乗り 2.0 kg/cm ² 2 人乗り 2.0 kg/cm ² 〕 |
| | 後輪 | 気圧は正常か？〔標準 1 人乗り 2.0 kg/cm ² 2 人乗り 2.3 kg/cm ² 〕 |
| ハンドル | 異常な振動がないか？あるいはハンドルが動かしにくいのか？ | |
| スピードメーター、照明、バックミラー | 作動は良好か？照明が光るか？後ろははっきり見えるか？ | |
| 主要部分の締めつけ | ねじ、ナットが緩んでいないか？ | |
| 異常なところ | 以前故障したところはまだあるか？ | |
| クラッチ | 作動効果はどうか？ | |
| バッテリー | バッテリー液は規定線の間にありますか？ | |

⚠ 注意！！

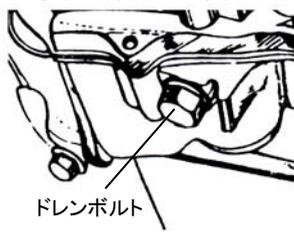
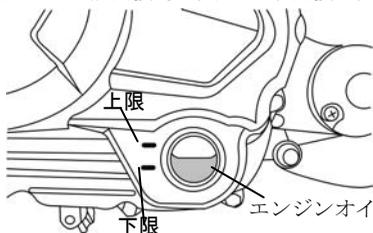
- 日常検査中、もしどれか一項目が不正常ならば、すぐ点検修理してもらわなければ使用できません。必要な時はお買い求めの SYM 特約店又はお近くの SYM 特約店に車両をお持ちいただき、修理を依頼して下さい。

エンジンオイルの点検と交換

- 平坦な地面で、車両をサイドスタンドで立てて、エンジンを 2~3 分停止した後、車体全体を垂直に立てて、エンジンオイル点検窓から油面が上限と下限の間にあるかどうか確認してください。
- エンジンオイル SAE 10W-40 API SJ あるいはそれ以上のレベルのエンジンオイルだけを使ってください。低グレード、低品質オイルをご使用の場合、保証責任は負いません。
- エンジンオイル容量：

T2→1.7 リットル(一般交換時:1.5 リットル; 交換フィルター式エンジンオイルフィルター:1.55 リットル)

T1→1.2 リットル(一般交換時:1.0 リットル; 交換フィルター式エンジンオイルフィルター:1.0 リットル)



⚠ 注意！！

- 車両が傾斜しているか、あるいは停車してエンジンを切ったばかりの時、エンジンオイルの量は正確ではありません。2~3 分ほど待ってから確認をして下さい。
- エンジンオイル補充後確実にエンジンオイルキャップを締めてください。

スクリーンオイルフィルターの清掃

フィルターナットキャップを開いて、スクリーンオイルフィルターを外し、ガソリンあるいはエアガンで、フィルター内の不純物を清掃して下さい。

スクリーンオイルフィルターはエンジン左下にあります。

⚠ 注意！！

- 車両が傾斜しているか、あるいは停車してエンジンを切ったばかりの時、エンジンオイルの量は正確ではありません。
- エンジンオイル交換と同時に、一緒にエンジンオイルエアクリナーを確認し、破損あるいは異物が詰まっていないか確認し、もし汚れていたらすぐに交換してください。

エンジンオイルフィルターの清掃

メンテナンス走行距離に基づいて点検あるいは交換しなければなりません。

⚠ 注意！！

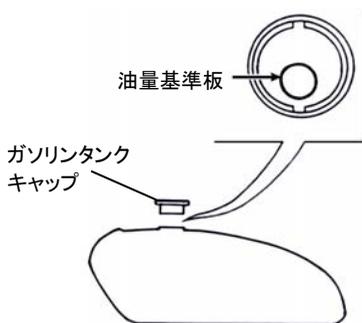
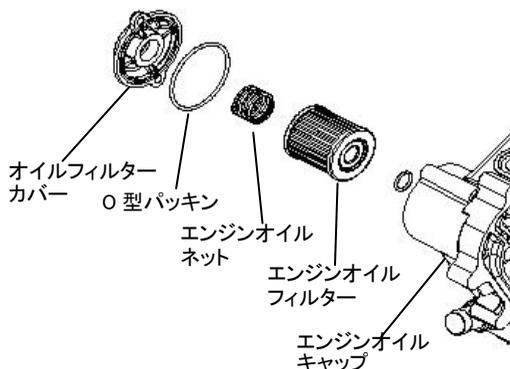
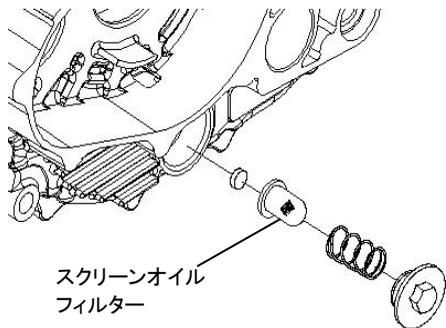
- エンジンオイルフィルターを交換すると同時に、一緒にO型パッキンを交換してください。

ガソリンの点検

- 目的地に到着するのに、ガソリンは十分ですか？
- メインスイッチを“ON”に回して、ガソリンメーターが“E”の位置を表示したとき、すぐに無鉛レギュラーガソリンを補充してください。
- ガソリンタンクキャップには鍵がかかっていて、鍵を開けるとき、メインスイッチキーを鍵穴に挿入した後、右へ回すとガソリンタンクキャップを開けて、ガソリンを補充できます。閉めるときはガソリンタンクキャップを直接下に押して下さい。
- ガソリンは無鉛レギュラーガソリンに限ります。

⚠ 注意！！

- ガソリンを給油するとき、サイドスタンドを立て、エンジンを止めてください。火気厳禁です。
- ガソリンを給油するとき、噴出する危険があるので、ゆっくりと給油して下さい。
- ガソリンを給油するとき、多く入れ過ぎると危険ですので、油量基準板を超えてはいけません。

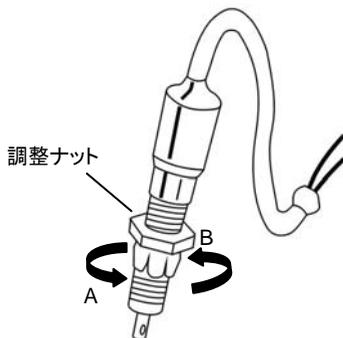


ブレーキランプの調整

ブレーキランプスイッチはエンジンボックス右側後方にあります。

調整方法は以下の通りです：

- 後ブレーキペダル前端遊びを点検して、ブレーキがきちんと動作するようにします。
 - 後ブレーキペダルを踏んで、そのブレーキが効き始めたとき時、ブレーキランプが光ります。
- ※ もしランプが光るのが遅すぎれば、A 方向へ調整ナットを回してください。
- ※ もし早すぎれば、B 方向へ回してください。



ラジエターの点検

《冷却水量点検》

- リザーバータンク内に冷却水が上限と下限の間にあるかどうか点検します。
- 冷却水が下限に接近している時、冷却水を上限まで補給してください。

《ラジエター水漏れ点検》

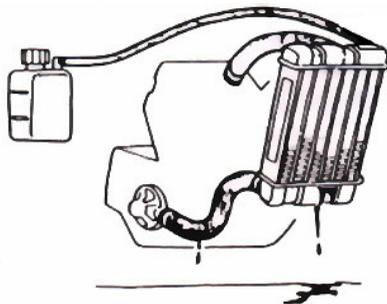
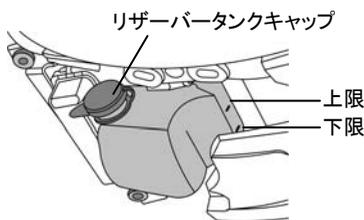
- ラジエターの水管に水漏れがないかどうか点検します。
- バイクを置いた地面に、水漏れ現象がないかどうか確認します。

ラジエター液の補給

ラジエター液不足の場合、リザーバータンクに補充して下さい。

1. 平坦なところで、バイクをまっすぐな状態を保って、立てます。
2. ラジエターキャップねじ(A)を外して、キャップを取ります。
3. 副ラジエターキャップを開いて、ラジエター液を上限位置まで補充します。
 - 冷却水位が下がりがすぎているら、異常現象を示しています。
 - ラジエターがさびるのを防ぐために、不明なブランドのラジエター液を使わないでください。

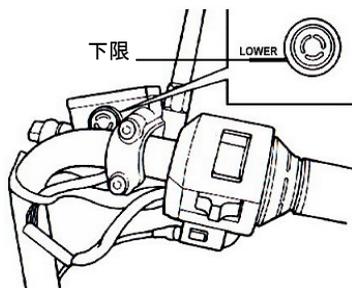
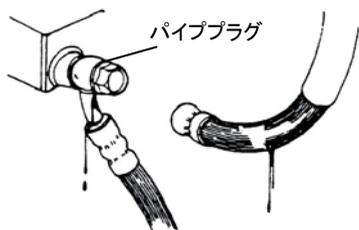
使用濃度比率：1:1



⚠ 注意！！

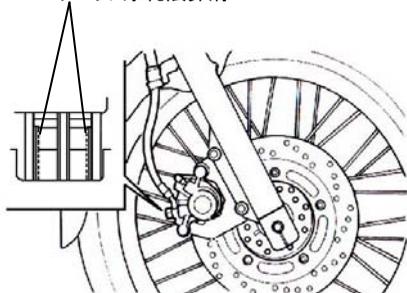
- ラジエター液を混ぜるとき、軟水を使ってください。
- 不良なラジエター液を使うと、ラジエター寿命が短くなります。注意してください。
- ラジエター液は正常な情況で一年ごとに一回交換をしてください。

ディスクブレーキの点検〔本内容はディスクブレーキの型別配備〕

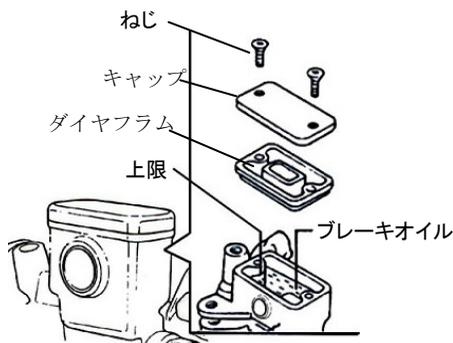


- 目視で漏れあるいは損傷がないかどうか点検します。もし漏れあるいは損傷があれば、メーカーで点検修理してもらってください。
- 平坦な地面で車両を立て、油面が下限にあるかどうか点検します。補充には、【DOT3】ブレーキオイルを推奨します。

ブレーキパッド摩耗限界溝



- ブレーキキャリパー後方から点検して、ブレーキパッド摩耗限界溝がブレーキローターに到達している時、必ず新しいブレーキパッドに交換しなければなりません。



【ブレーキオイルの補充】

1. ねじを緩めて、キャップを取ります。
2. 保存パイプ外周の不純物、汚れをふき取りますが、異物を保存パイプ内に落とさないでください。
3. ダイヤフラムを取ります。
4. ブレーキオイルを保存パイプ上限位置まで補充します。
5. ダイヤフラムを取り付け、キャップを取り付けます。
6. ダイヤフラムの方向に注意して、異物が入らないようにして、確実にキャップを閉めます。

⚠ 注意！！

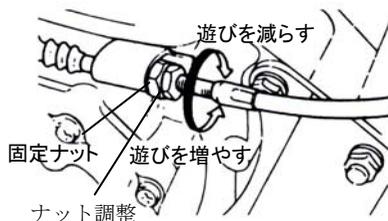
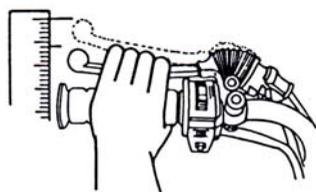
- ブレーキオイルを補充するとき、上限を超えないようにしてください。損壊を避けるため、ブレーキオイルの滴が、塗装部品、プラスチック部品につかないようにしてください。

クラッチレバーの点検と調整

クラッチレバー遊びは1~2センチでなければなりません。いつでも点検して、調整が必要な時は、固定ナットを緩めた後、調整ナットを回して調整し、調整完成后、固定ナットで締め付けます。

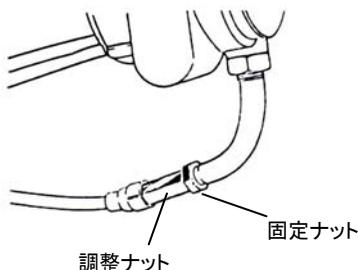
⚠ 注意！！

- クラッチの機能は、エンジンの馬力を後輪に伝え、有効な駆動力を生むことです。このクラッチレバーの調整が正確かどうか、バイクの性能に密接な関係があります。もしクラッチ動作がスムーズでなければ、ギアチェンジが困難になるか、あるいは加速がスムーズでなくなり、ギアチェンジが困難になるか、あるいは加速しないで滑る現象が発生します。
- 調整後、ギアチェンジ時スムーズかどうか、エンジン運転は正常か等の状況を確認してください。
- クラッチレバー遊びが小さすぎるか、あるいはきつすぎると、クラッチプレートの損壊につながりやすいです。



スロットル遊びの調整

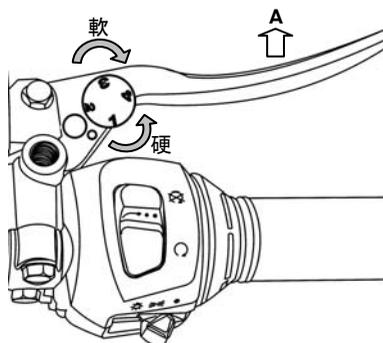
- 2~6mmの遊びでクリアランスを調整して下さい。
- 調整時、先に固定ナットを緩めた後、調整ナットを緩めて、固定ナットを締め付けます。



ブレーキレバーの調整

操作方式:

- ブレーキレバーを外側(A)へ引っ張って下さい。
- 調整は4段階調整できます。
位置(1)ブレーキレバーとハンドルの間の距離が最短で、ブレーキレバーを操作する感覚がいちばん柔らかいです。
位置(4)ブレーキレバーとハンドルの間の距離がいちばん長く、ブレーキレバーを操作する感覚がいちばん硬いです。



駆動チェーンの点検と調整

《チェーン検査方法》

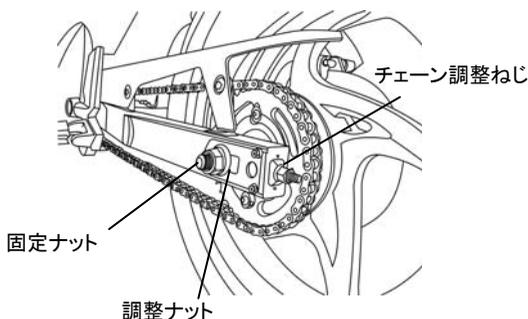
- 持ち上げた最大振幅は 1～2 センチの間です。三点以上を点検して、いちばんきつい点を基準にします。
- スタンドを立てた後、後輪を回して、伝動チェーンに引っかかりあるいは異音がないかどうか点検します。もし異常があれば、駆動チェーンを調整してください。

《チェーン調整方法》

- 緩めた後、固定ナット。
- 回転左右両側チェーン調整ねじを適切なところにまで緩め、それから調整ねじの刻みと下図に示した刻みを一直線に合わせ、固定ナットを締め付けます。

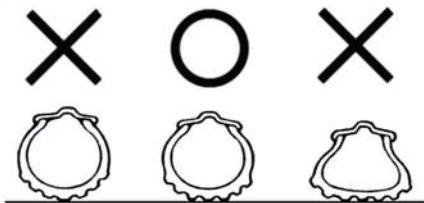
⚠ 注意！！

- 左、右両側必ず同じ刻みまで調整します。摩耗を減らし、チェーンを守るために、チェーンは必ず定時クリーニングしなければなりません。



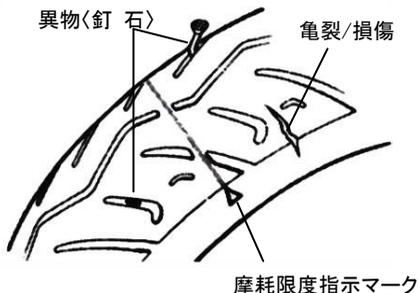
タイヤの点検

- エンジンを停止して、キーを抜いた状態で点検、空気を入れてください。
- タイヤ接地面のカーブが異常な場合、気圧メーターで点検して、正常気圧まで空気を入れてください。
- タイヤ気圧メーターでタイヤ気圧をするのは、タイヤが冷えているときに行ってください。



タイヤ標準気圧は規格表を参考にしてください

- 目視でタイヤの接地面あるいは側面に亀裂あるいは損傷がないかどうか点検してください。
- 目視でタイヤの接地面あるいは側面に、釘あるいは小さな石が刺さっていないか、あるいはタイヤの溝に挟まっていないか、を点検します。
- “磨耗限度指示”に従って、タイヤ溝の深さを点検してください。
- “磨耗限度指示”が出現していたら、すぐにタイヤを交換してください。



フォークハンドルの点検

【損傷】

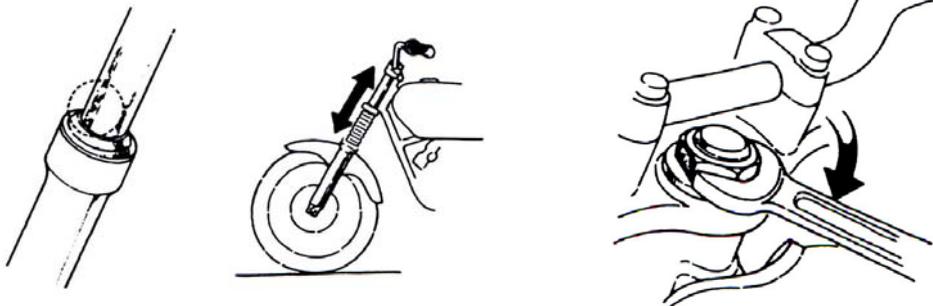
- 目視でフォークに損傷、油漏れがないかどうか点検してください。
- ハンドルを上下に動かしてフォークを点検して、曲がりや変な音が出ないかどうか点検してください。

【フォーク軸の鎖付状態】

レンチなどの工具で、フォーク軸のナットが、緩んでいないかどうか点検してください。

ハンドルを上下、左右、前後に動かして、ハンドル、ゆるみがないかどうか、重くないか、偏りまたは変な音の現象がないかどうか点検してください。

ハンドルを動かして、ブレーキケーブルがびんと張っている現象がないかどうか点検してください。点検でもし異常な現象があった時は、すぐにSYM 特約店へ行って、点検と調整をしてもらってください。

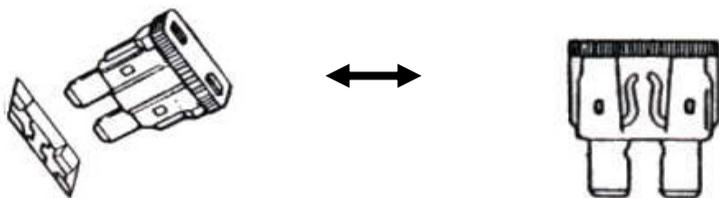


ヒューズの点検と交換

メインスイッチを切って、ヒューズが切れていないかどうか点検します。ヒューズが切れていたら、指定規格のヒューズを使用してください。

電器システムが烧けるのを防ぐために、規定アンペア数以上、あるいはその他銅線、針金を使うことを禁止します。

- ヒューズはバッテリー付近にあり、ヒューズ固定箱内に入っています。
- 新しいヒューズに交換する時、ヒューズと回路プラグ完全に位置を合わせないとけません。
- 電装部品: 例えば電球等の規格交換時に指定の純正部品を使用してください。規格以外の部品を使用すると、ヒューズが焼き切れるか、あるいはバッテリー消耗電氣量が大きすぎになります。
- 洗車時に、ヒューズボックス周囲を直接洗うのを避けてください。
- ヒューズが烧けた原因が不明の時、SYM 特約店で点検してもらってください。



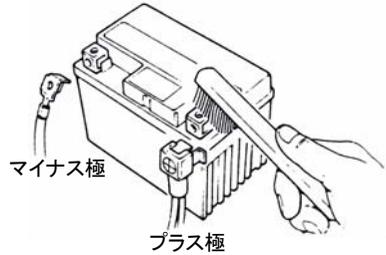
焼き切れた状態

バッテリーの点検とメンテナンス

バッテリー端子に汚れあるいは腐蝕がある時、取り外して清掃してください。

バッテリーを取り外す手順は以下の通りです：

メインスイッチを“OFF”にして、先にマイナス極線端子ねじを取った後、マイナス極線を外します。プラス極線端子ねじを取った後、プラス極線を外します。



⚠ 注意！！

- 端子が腐蝕して白い粉が付着している時、温水でふき取ってください。
- 端子に明らかな腐食があるとき、外して電極線用ブラシでこするか、あるいは紙やすりでこすってください。清掃後電極線をつなぎ、端子に薄くグリースを塗ります。
- バッテリーを取り付ける時、バッテリー取出要領の反対の順序で取り付けます。

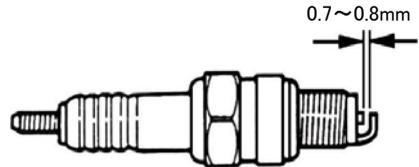
点火プラグの点検

プラグキャップを外して、プラグを取外してください。

電極の汚れ、カーボンの付着による汚れが無いか確認してください。

硬いワイヤーで、電極の間の汚れを取り除き、ガソリンで洗淨して、それから布で拭いて乾かします。・点火プラグ電極を検査して、電極の隙間を0.7～0.8mmまで調整します。(ギャップツールを使って測定してください)

点火プラグを取り付けるとき、手を使って締め付け、レンチを使って 1/2～3/4 回転締め付けて下さい。



⚠ 注意！！

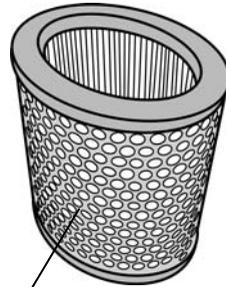
- エンジンを切ったばかりの時、温度が高いので、やけどに気を付けてください。推薦以外の点火プラグを使わないでください。高熱値点火プラグ CR8E を推薦します。

エアクリーナーエレメントの清掃

エアクリーナーがもし汚れによって詰まっていると、必ずエンジンの性能と燃費に影響します。定期的に清掃又は交換をして下さい。

手順は以下の通りです：

1. シートを取り外します。
2. エアクリーナーキャップのねじを取外し、エアクリーナーのキャップを取ります。
3. エアクリーナーボックス内からエレメントを取り外します。
4. エレメントがきれいかどうか点検します。もし埃がたまっていたら、清掃しなければなりません。もし汚れている場合は、新品に交換して下さい。
5. 取外しの反対の順序で、確実に取り付けます。



エレメント

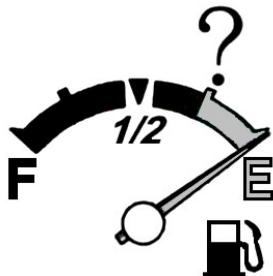
注意！！

- エアクリーナーを不完全に取り付けるか、非正規のフィルターを使用すると、埃が直接シリンダー内に吸い込まれ、摩耗して、馬力低下が起こり、エンジン寿命に影響します。
- エンジン性能を保証するために、必ず SYM 純正エアクリーナーエレメントを使用して下さい。
- 洗車時エアクリーナーを濡らしてはいけません。起動に影響します。

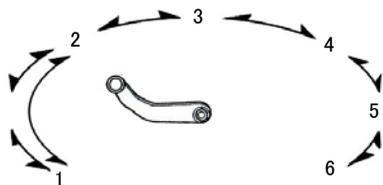
エンジンを始動できない時



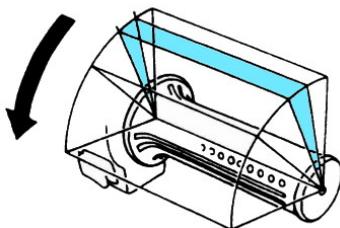
1. メインスイッチキーを”ON”の位置に回しましたか？



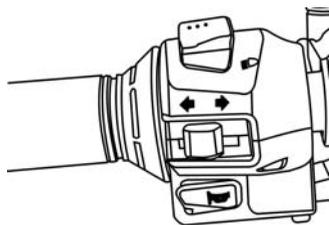
2. ガソリタンクにガソリンがありますか？



3. セルボタンを押したとき、ニュートラル状態ですか？

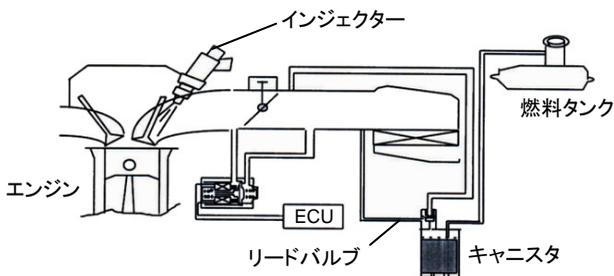


4. セルボタンを押したとき、スロットルを回していますか？



5. メインスイッチキー”ON”の位置に回したときホーンを押して、鳴らないときはヒューズが焼き切れている可能性があります。

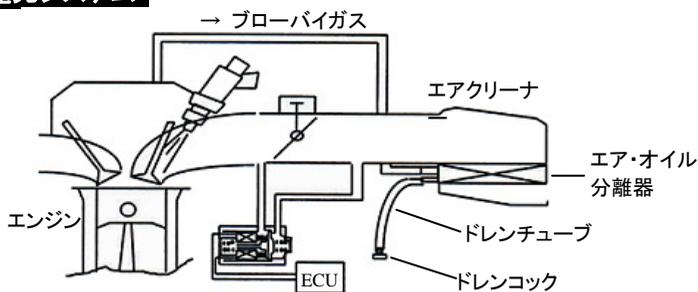
蒸発ガスコントロールシステム



システム:

ガソリンタンク内等の蒸発ガスは蒸発コントロールシステム内の各パイプに流れ込み大気中に放出されないようにしています。蒸発ガスはキャニスターに導かれキャニスターの炭素粒子に一時的に吸収されエンジン始動時に負圧により燃焼室内に導かれ燃焼されます。

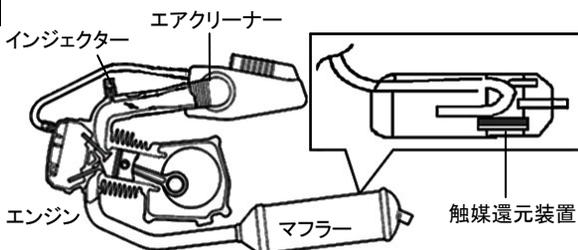
ブローバイガス還元システム



システム:

エアクリーナーに取付けてあるオイル・エア分離器にエンジンからのブローバイガスが流れ込みます。分離されたエアはエンジンの負圧により、エンジンに吸い込まれ燃焼されます。オイルはドレンチューブ内に溜まるので、定期的に抜いて下さい。

触媒還元装置



システム:

触媒還元装置はマフラー内にあり、不完全燃焼ガスの HC、NO_x はマフラー内の触媒による反応により、無害の CO₂、H₂O、N₂ に還元されて排出されます。

排気ガス中の環境汚染物質：ガソリンの不完全燃焼はCOとHCを発生される大きな要因で、ガソリンの浪費にもつながります。車両の性能維持と排気ガスの減少、ガソリンの節約のためにも定期的な点検とメンテナンスが重要です。

一、エアクリナーの清掃と交換：

エアクリナーはシリンダーに吸い込まれる空気ホコリや汚染物質をろ過する役割をしています。汚れていては空気がスムーズに流れません。通気性が悪いと空気が減り、混合気が濃くなり不完全燃焼してパワーダウンや燃費の悪化、排出ガス濃度の上昇をおこします。こまめに清掃し、清掃しても通気性が確保できない場合は交換して下さい。また交換する際は必ずSYM純正エアクリナーを使用して下さい。純正以外では適正な性能を維持できない恐れがあります。

二、点火プラグの清掃、調整と交換：

点火プラグの汚れを清掃し、ギャップを調整します。電極に摩耗や異常がある時は交換して下さい。不良なプラグは不完全燃焼や燃費の悪化、パワーダウンを招きます。

三、バルブクリアランスの調整：

バルブシートの摩耗、密閉不良、バルブクリアランスの調整不良は不完全燃焼の原因となります。定期的な点検調整をして、摩耗している場合は交換して下さい。また、バルブクリアランスの調整は正確にされていなければなりません。

四、オイル交換時は上限を超えない：

オイル量が過剰の場合、燃焼室までオイルが上がり炭素が溜まります。混合気の燃焼に影響し、パワーダウンや燃費の悪化を招きます。

五、点火時期は確実に合わせて下さい：

強力な火花で完全燃焼するとエンジンパワーは大きくなり、ガソリンの節約、排出ガスの減少につながります。

六、エンジンの劣化や摩耗はガソリンの浪費につながります。部品の点検をして下さい。

七、燃料及び点火システムを常に良好な状態に維持することは、ガソリンの節約と環境汚染防止につながります。

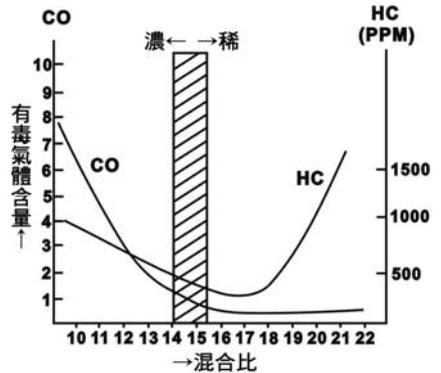
八、ガソリンの節約と環境汚染防止の為に以下の事項に配慮して下さい。

- (1) 車両は暖気運転をしてから走行しましょう。
- (2) 走行時はスロットルバルブを軽く握り、一定の速度を保ち必要以上にアクセルをふかさないで下さい。
- (3) 停車、駐車時は早めに減速し、急ブレーキは避けましょう。

九、メンテナンス、調整、点検を受けた車両は最高の状態になっています。

| CO | HC | 原因 |
|----|----|--|
| 高 | 正常 | ガソリンと空気の混合比が濃い |
| 正常 | 高 | 1. 点火システム不良： <ul style="list-style-type: none"> • 点火タイミングの不良 • プラグの汚れ、ギャップの不良 • 点火コイルの不良 2. エキゾーストバルブの摩耗 3. シリンダーの摩耗 |
| 低 | 高 | 1. 混合気が濃すぎ、薄すぎで点火不良 2. エア漏れ： <ul style="list-style-type: none"> • 負圧チューブ漏れ • インレットパイプ漏れ • 点火プラグガスケット漏れ • 燃料噴射システム設定不良 |
| 高 | 高 | 1. エアクリーナーの汚れ 2. インジェクター不良： <ul style="list-style-type: none"> • 混合気が濃すぎる • 燃料噴射システム設定不良 3. PCVバルブの緩み |

| 排気ガス煙異常の原因 |
|---|
| 1. エンジンオイルの過剰 2. オイルポンプの異常 3. 粗悪オイル又は低品質オイルの使用 4. エンジンの老化、摩耗 5. 長時間の低速使用(時速 20~30Km/h 以下) 6. マフラー内のカーボン堆積による汚れ |



| 項目 | メンテナンス キロメートル | 300KM | 1000KM 毎 | 3000KM 毎 | 6000KM 毎 | 12000KM 毎 | 備考 |
|----|------------------|----------|----------|------------|----------|-----------|----|
| | チェック項目 | メンテナンス期間 | 新車時 | 1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | |
| 1 | エアクリーナーエレメント(備考) | I | | C | C | R(ｽﾎﾞｯｼﾞ) | |
| 2 | オイルフィルター | C | | | R | | |
| 3 | エンジンオイル | R | I | 3000KM 毎交換 | | | 注1 |
| 4 | タイヤ空気圧 | I | I | | | | |
| 5 | バッテリー | I | I | | | | |
| 6 | スパークプラグ | I | | I | R | | |
| 7 | キャブレター (アイドル回転) | | | | | | |
| 8 | ステアリングベアリング、ハンドル | A | I | A | | | |
| 9 | トランスミッションオイル漏れ | I | | | I | | |
| 10 | マフラー取り付け状態 | I | I | | | | |
| 11 | クランクケースオイル漏れ | I | I | | | | |
| 12 | 車体各部給脂 | I | I | | | | |
| 13 | ドライブチェーン | | | | L | | |
| 14 | 燃料漏れ | I | I/L | | | I/R | |
| 15 | スロットル操作、ケーブル | I | | I | | | |
| 16 | エンジンボルト、ナット | I | | I | | | |
| 17 | シリンダーヘッド、シリンダー | I | | I | | | |
| 18 | 排気システム/カーボン清掃 | | | | I | | |
| 19 | カムチェーン/点火時期 | | | | I | | |
| 20 | バルブクリアランス | I | I | | | | |
| 21 | ショックアブソーバー | I | | A | | | |
| 22 | ブリーザードレンの清掃 | I | | I | | | |
| 23 | フロント/リヤサスペンション | I | | I | | | |
| 24 | サイドスタンド | I | | | I | | |
| 25 | クランクケースブローバイシステム | I | | | I/L | | |
| 26 | トランスミッション作動点検 | I | | I | | | |
| 27 | ブレーキシステム/ブレーキパッド | I | I | | | | |
| 28 | 車体各部ボルト/ナット | I | I | | | | |
| 29 | 各電器装置 | I | I | | | | |

☆ 上記メンテナンススケジュールは1000km 毎を参照ベースとして立てられています。

※ 車両を適正な状態に保つ為にSYM 正規代理店または取扱店に持ち込み定期的チェックと調整を受けてください。

コード：I～点検、清掃、調整 R～交換 C～清掃(必要に応じて交換) L～給油

備考：1. ほこりっぽい道、環境汚染のひどい地区での走運転両はエアクリーナーエレメントの洗浄、取替えは、より頻繁にしてください。

2. 頻繁に高速走行したり、総走行距離数が高い場合はメンテナンスをより頻繁にしてください。

【備考欄のノートは適用モデルを表記しています】

| 項目 | T2 250 | T1 125 |
|----------------------|--|-------------------------|
| | PD25A1 シリーズ | PD12A1 シリーズ |
| 車長/車幅/車高(mm) | 2,005 / 790 / 1,050 | |
| 車重ホイールベース/シート高(mm) | 173Kg/1,320/790 | 155Kg/1,320/790 |
| 最小回転半径 | 2.6 ± 0.25 m | |
| エンジン型式 | 4-STROKE ENGINE (OHC) | |
| 排気量 | 249.4 cc | 124 cc |
| シリンダー内径/サイクル | Ø 71 mm / 63 mm | Ø 56.5 mm / 49.5 mm |
| 圧縮比 | 10.5:1 | 9.0:1 |
| 最大馬力 | 25 ps / 7,500 rpm | 10.8 ps / 9,000 rpm |
| 最大トルク | 2.35 kg-m / 6,000 rpm | 0.97 kg-m / 7,000 rpm |
| 登坂能力 | 28°以上 | |
| 始動方式 | セル | |
| エンジン回転速度 | 1,650 ±100 rpm | 1,700 ±100 rpm |
| ヘッドライト | 12V 60W / 55W×1 | |
| 位置ランプ | 12V 5W×2 | |
| テールランプ / ブレーキランプ | LED | |
| 前 / 後方向指示器 | 12V 10W×4 | |
| 方向指示ランプ | LED | |
| メーターランプ / ハイビーム指示ランプ | LED / 12V 1.7W×1 | |
| ヒューズ | 20A×1 15A×2 10A×1 | |
| バッテリー型式/容量 | 12V(YT12A-BS) 10Ah | 12V 8Ah |
| 点火プラグ(標準点火プラグ) | NGK CR8E | NGK DPR7EA-9 |
| 点火プラグ隙間 | 0.7~0.8 mm | |
| 前輪ブレーキ | ディスクブレーキ(Ø288mm) | ディスクブレーキ(Ø260mm) |
| 後輪ブレーキ | ディスクブレーキ(Ø222mm) | ディスクブレーキ(Ø220mm) |
| タイヤ(前輪) | 110/70-17 | |
| タイヤ(後輪) | 140/70-17 | |
| タイヤ圧(1人乗り) | 前輪 2.0 kg/cm ² / 後輪 2.0 kg/cm ² | |
| タイヤ圧(2人乗り) | 前輪 2.0 kg/cm ² / 後輪 2.25 kg/cm ² | |
| ガソリンタンク容量(リットル) | 14 リットル | |
| エアクリナー形式 | ろ紙タイプ | |
| エンジンオイルフィルター | ネット式 / 離心式 | |
| エンジンオイル油量 | 1.7 リットル (交換時 1.5 リットル) | 1.2 リットル (交換時 1.0 リットル) |

※本説明書と実車にもし違いがあれば、実車を基準とします。



保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。